

第8回気象予報士CPD運営委員会議事録

日時 令和3年3月25日(木) 20時00分～21時00分

場所 オンライン Zoom会議使用

出席者

委員長兼認定委員長	藤部 文昭	東京都立大学 地理環境学科特任教授	
委員兼認定委員	川瀬 宏明	気象庁気象研究所応用気象研究部主任研究官	
委員兼認定委員	出世ゆかり	国立研究開発法人防災科学技術研究所水・土砂防災研究部門主任研究員	
委員	安木 啓	株式会社応用気象エンジニアリング	代表取締役社長
委員	大西 晴夫	一般社団法人日本気象予報士会	代表理事会長
副委員長(議長)	平松 信昭	一般社団法人日本気象予報士会	理事副会長
事務局	内山 常雄	一般社団法人日本気象予報士会	常務理事CPD担当幹事

議 事 概 要

1. 開会の挨拶(事務局)

2019年5月16日に第7回運営委員会を開催して以来、1年半以上にわたって運営委員会を開催できなかったことをまずお詫びいたします。この間、気象予報士会のサーバーのウィンドウズ7更新問題という内部事情により、CPD制度の手続きが大幅に変更され、その後はコロナ禍によって、対面の会議の開催が推奨されなくなりました。予報士会ではZoom会議の体制が整いましたので、ここで開催する運びとなりました。この間も、認定作業は行うことができました。ご協力に感謝いたします。

平松議長

CPD制度は必要ということは共通認識になっているとおもいますが、なかなか熱心に行うまでには至っていないという現状と思います。必要な制度ですから、さらに発展するように努力していかなければならないと思います。

2. 藤部委員長挨拶

1年だけということでお引き受けしたが、ここまで2年間勤めてきました。他の方に引き継ぐまで、引き続きお役に立てればと思います。

3. 第7回運営委員会以降の活動報告

事務局から、前回の運営委員会以降の活動報告を行った。

① 日本気象予報士会のサーバーがウィンドウズ7であり、その更新に伴いこれまで利用してきたCPD管理プログラムにそのままではアクセスできなくなるという問題が発生した。管理プログラムを改良するには数十万円以上、その保守に年間25万円程度必要となることから、これまでの管理プログラムの利用を断

念し、利用者にはCPD実績表をエクセルで作成してもらう手法に変更した。移行にあたって、希望者には管理プログラムのデータのエクセル表への移行サービスをおこなった。実績表作成に必要な情報を掲載する気象予報士CPDポータルサイトを作成した。

② 制度運営上の問題点として、これまでは利用者の活動実績が把握できたが、今後は実績表が提出されるまで活動状況が把握できないことになったことが挙げられる。

③ 一方で、これまで本制度に対して予報士から疑問や批判の対象となっていた「個人情報の収集」「利用者が少ない活動に過大な経費が掛かっているのではないか」という問題は解消された。利用者は認定申請を行わない限り個人情報を予報士会に提供する必要はなくなり、サーバーの運用費用は必要なくなった。

④制度変更後の認定者数は16名、そのうち更新認定者が14名と大半を占めた。現在の認定者総数は23名である。

⑤制度への協賛企業は1社減少して、株式会社応用気象エンジニアリング1社となった。この間、必要経費が減少したことから協賛金を年間5万円から3万円に減額して運営してきたが、次年度からは出費額と見合った1万円とする。

⑥認定申請者が増加しない理由としては、

元々技能研鑽を継続的に行っている気象予報士が少ない（予報士会の講習受講者数から推定できる）

日々の活動情報を提供することに抵抗を感じる予報士がかなりいる

活動記録をつけるのが面倒（まとめて記録しようとしてできなくなる）

対外活動を行っていない予報士には必要性が低い制度（認定者の中には認定されたことを個人HPに掲載するなどして活用している人がいる）

⑦気象予報士CPDポータルサイトの紹介

質疑：

安木委員：企業として協賛するからにはメリットが出る制度であってほしい。認定のハードルが高過ぎて、気象業務の現業者が認定にたどり着けない制度ではおかしい。

川瀬委員：予報士会会員は、認定申請に至るまでの手続きが面倒なこと、会員外は経費を掛けてまで認定申請はしない。してもご利益があまりない制度だから利用者がすくないのだろう

4. 認定作業における確認事項

事務局：最近の認定で、気象予報士の技能研鑽に関係のある活動であるか否かについて、基準合わせをした方がよいとの意見があったが

川瀬委員：活動内容が気象に関係していることが必要。教える相手が幼稚園から社会人までレベルに相違があっても、気象について教えているのであればよいと思う。あくまで天気、気象にこだわりたい。鉄道の話になるとどうかと思う。

出世委員：今回の実績表にもオーロラがあったが、どうかなと思った。ただ、気象業界の活動は認定する方向の制度にすべきと思う。民間の気象会社では裏方的な職務もあり、営業から技術まで幅広いが、それらの活動をどう評価するか？

大西委員：予報士に期待される能力は、「わかりやすく一般の人に伝える」こと。気象科学館の解説員に対して、今般スキルアップ研修を行った。内容は言葉遣い、相手に好印象を持って頂く方法などだった。大変勉強になったが、これは CPD の対象になると思う。技能研鑽対象を余り固く考えない方がよいと思う。要は申請書の書き方で、気象分野での活動として認定できるものとする必要であろう。

川瀬委員：活動内容に気象を絡めていることを活動内容に記載してもらえれば問題以ない。それがかかれていないと、認定委員がどこに気象がかかわっているのかを考えて評価することになる。

平松委員：周辺分野を含め、気象予報士の基礎となることも評価対象に含める。気象業務の契約について学ぶことも対象に含められる。

川瀬委員：現業を行っている予報士は、講習を受けなくても現業の実績でとれるようにしてもいいのではないかな？講習会ポイントがないと認定されないというのではハードルが高いのではないかな？

平松委員：現業ポイントで半分までとれる。100%現業でまずいというのが準備段階での議論だった。他の CPD 団体は現業ポイントを一切認めていない。

藤部委員：ご利益がないのにハードルが高いところの問題となっているのなら、ここでハードルを下げてもいいのではないかな？ご利益が出てきたらハードルを上げていくということを考えたらどうか？

大西委員：今でも現業者には少し取りやすい制度になっている。現業もやっていない、その他の活動の機会も少ないという人にはかなり認定を取りにくい制度となっているのが問題だ。私も更新認定は難しい状況にある。

5. 認定委員の選定

事務局：それぞれご多忙中の所、認定委員を引き受けていただいて感謝している。2年の任期が満了となるが、引き続きお引き受けいただきたい。

3名の認定委員の了承が得られ、引き続き認定委員を2年間お願いすることとなった。

事務局：規程上は日本気象予報士会の幹事会の了承を得て就任することになっている。

平松委員：形式上は気象学会からの推薦を得たものを選任することになっているので、こちらから推薦依頼状を提出する必要がある。

事務局：兼業許可が必要な場合は、こちらから委員の職務の内容などを含めた就任を依頼する文書を提出するので、事務局に依頼していただきたい。

6. その他

平松議長：最後にフリーにディスカッションをお願いする

大西委員：CPD 制度をこれまで運営してきたことには事務局を担当されてきた内山さんのおかげといえる部分がある。事務局が交代となった場合にどうするか問題を抱えている。

事務局：そろそろ後任に引き継ぐ時期だと考えているが、後任にはCPDの手続きを経験した認定者が適当と考えないと候補者が見当たらない。

川瀬委員：案外これまでかかわってこなかった人が引き継ぐのもよいと思う。申請者が少ないという現状も、何か変えると増えるのかもしれない。

大西委員：若い人の意見を取り入れることは重要。予報士資格は一度とったら一生続く。しかし、その地位に安住してはいけない。予報技術は日進月歩している。そのため、予報士会は技能講習会を開催している。これまで一般向け、現業者向けに分けて複数のコースを実施してきた。しかし実際にはどのコースも受講者は同じ顔ぶれになってしまった。許可事業者の中には社内研修でお困りの会社もあるのではないか。このような会社の気象予報士向けの講座を気象予報士会が開くなどできれば、お互いにメリットが出るのではないか？CPDもたまたまし、現業の人も認定の機会が得られる。

川瀬委員：CPDもSNSで発信したらいいのではないか？SNSの検索にCPDが引っかかれば利用者が増えるのではないか？

安木委員：現業の人に制度に入ってもらうためには、CPDのポータルサイトを見てもらわなければならない。見てもらう努力はしているのか？

事務局：残念ながらアクセス数は1日10件程度と極めて少ない。

安木委員：次回のNHKの朝ドラは気象予報士が主人公になる。もう脚本もできているとのことだが、その中でCPDに触れてもらったりすれば認知度が上がる。

大西委員：予報士会では広報担当の諸岡さんが、このような分野では熱心に活動している。すでに何らかの動きをしているようだが、予報士会のホームページで扱えば、それなりの話題になるかもしれない。

平松委員：今晚は遅くまでご議論いただきありがとうございました。